



©Yuki Asada

民族の誇り、女性の中で

ラオスには美しい色彩がある。女性たちが伝承してきた機織の技術は、赤、黄、青などの鮮やかな布を織り上げ、そこに描かれる繊細な模様は手に取る人を魅了する。

首都ビエンチャンの市街地から8キロほど離れた緑豊かなホアイホン村には、ラオスの女性の自立を支援する日本のNGOによって1998年に設立された「ホアイホン職業訓練センター」がある。ここでは、女性や障害のある人々が、日々、工房で機織や染色、縫製などの伝統技術を学ぶ。現在はNGOの手を離れ、地域の人々の手で独自に運営されている。

ラオスでは、一般的に女性の地位が低く、特に地方部の女性たちは近年の経済

発展から取り残されがちだ。そんな女性たちの地位向上を手助けしている同センターのチャントソン・インタヴォン代表は、「訓練を受けた女性たちは驚くほど技術が上達し、故郷で技術を生かして仕事を始める人もいます。彼女たちの成長を見守れるのはうれしいことです」と話す。

2012年までに延べ566人の女性たちがセンターで訓練を受けた。運営は、工房で作られる製品の売り上げと寄付で成り立っており、訪問者の一日織物体験や長期講習なども受け付けている。

「女性の将来の選択肢を増やすと同時に、ラオスの誇りである織物を守っていくことが私たちの使命です」とチャントソン代表は語った。



複雑な模様を手作業で一つ一つ織っていく女性たち

- ★ラオスの織物製品を1人にプレゼント!
→詳細は38ページへ
- ★商品は日本で開催される展示会でも購入可能
(3月30日～4月4日に京都住蓮山安楽寺にてラオス織物展示会を開催予定。展示会情報は<http://deknoylao.org/>でもご紹介しています)

